

紫陽花
あじさい





日本の花・・・紫陽花

いまはセイヨウアジサイが元氣

紫陽花は日本原産のアジサイ科アジサイ属の植物の総称。学名は *Hydrangea* 「水の容器」という意味。

「あじさい」の名は「藍色が集まったもの」を意味する「あづさい(集真藍)」が訛ったものという。また漢字表記に用いられる「紫陽花」は、唐の詩人白居易が別の花に名付けたもので、平安時代の字源順がこの漢字を当てはめたことから誤って広まったと言われている。

万葉集には少ないが、平安朝の時代から数多く詠まれた。「あぢさゐの下葉にすたく虫をば、四ひらの数の添ふか」と見る「藤原定家」

いま園芸品として広く知られる球状のアジサイは「セイヨウアジサイ」(西洋アジサイ)で、日本原産の「ガクアジサイ」を改良した品種。

アジサイの学名は *Hydrangea macrophylla*
ガクアジサイの原種は *Hydrangea macrophylla forma normalis*

樹高1〜2m。葉は、光沢のある淡緑色、葉脈のはっきりした卵形で、周囲は鋸歯状。6〜7月に紫(赤紫から青紫)の花を咲かせる。

一般に花と言われている部分は装飾花で、本来の花は中心部で小さくめだたない。花びらに見えるものは萼(がく)で、「セイヨウアジサイ」では、すべてが装飾花に変化している。

花の色が土壌のpH濃度によって徐々に変化するので、「七変化」とも呼ばれる。日本原産は青色とされている。

花はつぼみのころは緑色、それが白く移る、咲くころには水色、または薄紅色。咲き終わりに近づくにつれて、花色は濃くなっていく。

花言葉「アジサイ」
強い愛情、移り気なこころ、一家団欒、家族の結びつき

文京区の白山神社にて

